



令和 3年 8月 20日	
資 料 提 供	
担当課(室)	県立博物館
担当班・係	学芸課
担 当 者	主任学芸員 大河内
電 話	073-436-8670

企画展「きのくにの宗教美術 —神仏のさまざまな姿—」  
開催のお知らせ

県立博物館では、令和3年8月28日(土)～10月3日(日)の会期で、企画展「きのくにの宗教美術—神仏のさまざまな姿—」を開催します。

和歌山県には、高野山や熊野三山など、全国から多数の参詣者を集める大寺社が点在し、そして紀伊半島をぐるりと巡る広い県域各地の集落には、住民が幾世代にもわたって信仰拠点としてきた寺社が多数継承されています。それらの信仰の場には、祈りの対象としての仏像や神像、あるいは仏の姿を描いた仏画が、数多く伝わっています。


創立50周年を迎えた和歌山県立博物館ではこれまで、国宝・重要文化財など周知の文化財の普及に努めるとともに、県内各地の寺社・堂祠の文化財調査を積極的に行い、新たな資料の把握とその公開、そして情報の共有化に努めてきました。

この企画展では、そうした近年の調査活動のなかで新たに確認された優れた宗教美術の数々を、「弘法大師と密教の仏」「仏の群像」「山の神仏、港の神仏」「海を渡って仏は来たれり」の各章に分けて公開し、祈りの力で作られ守られた神仏のさまざまな姿とその豊かな魅力をご紹介します。

出陳点数38件(42点)のうち、およそ3分の2にあたる24件(26点)が初公開資料です。

別添チラシ・出陳資料一覧・見どころもご参照下さい。これら資料に掲載している画像は、どれでもデジタルデータでご提供します。次のメールアドレスに必要な画像をお知らせ下さい。

[admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp](mailto:admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp)

企画展	きのくにの宗教美術 —神仏のさまざまな姿—	
会 期	令和3年(2021) 8月28日(土)～10月3日(日)	
会 場	和歌山県立博物館 (和歌山市吹上1-4-14) 企画展示室	
開館時間	午前9時30分～午後5時 (入館は午後4時30分まで)	
休 館 日	毎週月曜日(ただし9月20日(月・祝)は開館、9月21日(火)は休館)	
入 館 料	一般280円(230円)・大学生170円(140円) ※ ( )内は20名以上の団体料金 ※高校生以下、高齢者(65歳以上)、障害者手帳をお持ちの方、県内に在学中の外国人留学生は無料 ※9月5日(日)、10月3日(日)は無料入館日	

## 企画展「きのくにの宗教美術—神仏のさまざまな姿—」の見どころ

### 弘法大師像（こうぼうだいしぞう）

鎌倉時代（13～14世紀）如意輪寺（有田川町）

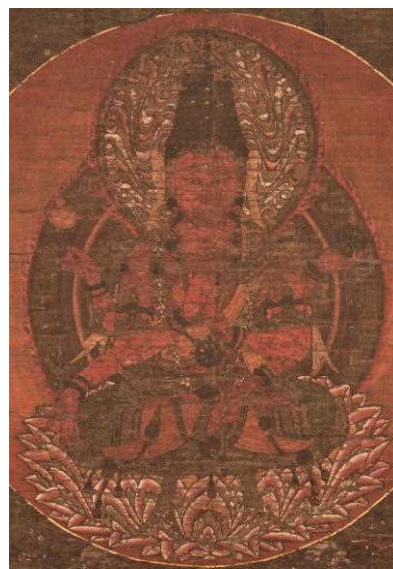
有田川町中野の如意輪寺に伝来した弘法大師像で、鳥羽法皇熊野御幸の折に寄進されたとする伝承があります。右手に五鈷杵、左手に念珠を執って、背のある牀座に座り、足下に浄瓶と沓を配置するいわゆる真如親王様大師像ですが、浄瓶が向かって左に置かれるのは珍しい図像です。褪色が進み、剥落もありますが、描線には弾力があって緊張を失わず、表情には生気があるなど、制作時期は鎌倉時代に遡るものと考えられます。高野山上の作例を除いて、現在のところ和歌山県下で確認されている画幅のうち、最も古い弘法大師像です。初公開。



### 一字金輪曼荼羅（いちじきんりんまんだら）

鎌倉～南北朝時代（14世紀） 霊現寺（和歌山市）

岩出市野上野の蟹谷山西方寺旧蔵資料で、一字金輪仏頂という仏を中心とした仏画です。ただしこの一字金輪仏頂の姿は、一般的なものとは大きく異なり、身は赤く、額に眼があり、腕を六本あらわした姿で、愛染明王という仏と通じるところがあります。またその手には輪宝や火焰宝珠を手にしていて、如意輪観音という仏とも通じるところがあります。詳細は未だ明らかではありませんが、こうした特殊な姿が描かれるにあたっては、天皇家や中央政治とも近い真言僧の関与があった可能性があります。他に類例のない、日本でただ一つの特徴的な姿の仏の像です。初公開。 ※画像は中尊部分



### 宝冠釈迦如来坐像（ほうかんしゃかによらいざぞう）

室町時代（16世紀） 大崎観音堂（海南市）

海南市下津町大崎地区の大崎観音堂の本尊像です。髻を結び、大衣と袈裟を着て、腹前で印を結んだ姿で、観音像として伝わりましたが、本来は宝冠釈迦如来坐像という禅宗寺院に特有にみられる仏です。銅铸造製で、漆箔仕上げとします。

同じ観音堂に天文10年（1541）に作られた伽藍神坐像と達磨坐像が残されており、作風もよく一致していて、この像も同時期、同工による造像と考えられます。古くからの風待ちの港である大崎港において、かつて禅僧たちが施設修造の勧進や人びとの交流に関わっていた歴史が、残された仏像を通じて新たに浮かび上がってきました。初公開。



## 龍華会図 (りゅうげえず)

朝鮮時代 隆慶2年(1568) 如意輪寺(有田川町)

有田川町中野の如意輪寺に伝来した朝鮮時代の仏画です。朱に染めた画絹に金泥で、弥勒えぎぬ きんでい みろく仏がこの世に現れて説法を行うようすを緻密ちみつに描いています。画記によって隆慶2年、朝鮮王朝第13代明宗めいそうの一周忌に際して、第12代仁宗じんそう後の恭懿王大妃きょうい おうだいひが極楽往生を願って描かせたことが分かります。この時期の朝鮮王朝では仁宗と明宗の交代に際して外戚による熾烈な権力闘争が繰り広げられており、本図の制作と供養もそうした政治の動向と連なる可能性があります。新出の朝鮮仏画の重要作例であり、和歌山県立博物館で保管のうえ、初公開します。

